

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜本巣特別支援学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年2月28日(火) 13:15～15:15
- 3 開催場所 岐阜本巣特別支援学校 北館3階会議室
- 4 参加者

会 長	神山 弘彦	西秋沢自治会長
副会長	山田 孝治	北方町商工会専務理事
委 員	松本 和久	岐阜聖徳学園大学教育学部 特別支援教育専修教
	牛丸 真児	瑞穂市社会福祉協議会 福祉総合相談センター相談支援専門員
	森 久子	本巣市主任児童委員
	橋本 民子	本巣市障害者生活支援センター「えがお」
	板倉 寿明	愛知淑徳大学講師
	清水 美典	児童発達支援センターきらり 児童福祉支援室相談支援係 相談支援専門員
	藤田 佳正	本校PTA会長 (欠席)
	高橋 徳子	本校PTA副会長
学 校 側	神戸 茂 校長	上山 順子 事務部長
	牧村 貴志 教頭	福井 三和子 教頭
	松本 深香 小学部主事	原 和代 中学部主事
	瀬下 裕基 高等部主事	永井 久江 教務主任

### 5 会議の概要(協議事項)

#### (1)各部・各分掌の自校反省について

- ・児童生徒の学習活動の様子(授業や行事等)を各部ごとに写真を提示しながら紹介した。
- ・各学部の反省(課題と改善策)及び各分掌の自己評価等について報告した。

#### (2)今年度の当校の運営及び来年度に向けて

- ・校長より、今年度の取組についての報告や来年度に向けての説明をした。

意見1:・コロナ禍3年間の空白は大きく、セミナーハウスの喫茶は営業がなく、学校自体に活気がなくなったように感じたこともあった。今後は、セミナーハウスが改修されたので、喫茶や行事が以前のように復活し、地域の人々との交流ができるようになるとうい。その際は、地域を代表して伝える活動に協力していきたい。

意見2:自校反省について、全体的に反省(課題)が多く、自己評価も低く感じる。もっと自信をもって多くの成果を伝えていくとうい。

・コロナ禍により、今までは何をやるにもできるかできないかであったが、今後は手探りの状況での活動や運営となると思われる。また、コロナ前と同じように行事が復活すると、教師が手一杯にならないか危惧するが、児童生徒のために教師が余裕をもってできると、委員としても安心してみていられる。

意見3:学習活動の様子(写真)を見て、日頃の教師の支援がよく伝わってきた。また、地域・行政との連携もよくできている。

・社会全体の傾向だが、職員が気持ちよく働ける職場であるとよい。

意見4:来年度より中学部が45分授業を50分授業に変更されるが、給食や昼休みの時間が短くなり、ゆとりがなくなるか。もう少し生徒がゆったり過ごしてもよいのではないか。

→ 活動内容にゆとりをもって取り組むように考えている。

・「café 和」の再開が楽しみである。これからも児童生徒の成長が分かるような学校の自慢話を多く聞くことができるとうい。

意見5:学校運営について5つ述べる。

- ① 小・中・高の系統性:「子どもたちが楽しみにできる」視点で目玉となるものがあるとよい。進級したらあの活動ができるのだ、先輩みたいになりたいなど、期待をもてるような学習活動を展開するとよい。
- ② 報連相を大切に :報告・連絡・相談後、どうなったかという報告があると更によい。
- ③ 全校研究の視点 :自立活動については県内の他の特別支援学校でも行っているところがある。学校間で情報交換等、交流できるとよい。
- ④ ICTの活用 :知的の児童生徒にとってはリアルな場面のほうがよいこともある。児童生徒の思い、意思表示を引き出す一助として活用できるとよい。
- ⑤ 教材教具展 :どの教材も工夫がみられるが、実際にどう活用するのか、活用後の児童生徒の変容等、紹介しあうと教材教具のよさが活き、発展する。校内のサーバー等に動画を入れていつでも見ることができるとより「よさ」を共有できる。

意見6:学校は児童生徒が元気に活動していることがいちばんである。来年度、脱コロナはチャンスである。過去の実践も大切であるが、これからは新しいものを作り上げていけばよい。

児童生徒の支援において、これはダメとよくないことをやめさせるより、これやってみようかと、新しいことに視点を置き換える。そうすることで、児童生徒も教師もやりやすくなる。

・「教えられる」より「教える」方が、定着しやすい。児童生徒の間でも先輩が後輩に教えることで、その子の力を最大限に引き出せる。そして、新しいものを「創る」チャンスにつながると考える。来年度は新しいものを「創る」一年にしていくとよい。

意見7:各部の紹介で児童生徒の成長を知ることができてよかった。できるようになったら、次はこれができるもつといいねと、分かりやすい目標を立てることが大切である。

・卒業後、学校で頑張ったことが十分に生かされない。社会の現場で困難に遭遇すると、それを乗り越えていけないこともある。卒業後の移行支援については一人一人に対して、伝え方や指導を工夫してもらいたい。良い点も多く伝えていくとよい。

意見8:学校は、児童生徒の力を引き出して社会に出られるように努力しているが、家庭では、できること、できていたことも保護者がやったほうが早いからと手を出してしまうことが多い。家庭での協力を継続して呼びかけ、連携して児童生徒の成長につなげていくとよい。

意見9:懇談期間に実施されていた高等部の作業製品販売で希望していた商品を購入できた。来年度は、Café 和の再開も含め、生徒から直接購入できるようになることを楽しみにしている。

・児童生徒がいろいろな人に支えられて学校生活を安心して過ごすことができることが分かり、この学校運営

協議会に参加できてよかった。これからもよろしくお願ひしたい。

(3)作業製品価格の検討・・・今回は新製品がないため検討無し

まとめ

今回、年度末の反省をふまえて、委員からは、厳しく反省することよりもっと自信をもって今年度の成果を評価するとよいという意見を得た。児童生徒が笑顔で楽しく学習している様子や、様々な支援による児童生徒の変容等についても、今後も保護者や地域にホームページや学校通信等で紹介するなど委員からの助言に応えていく必要がある。

来年度、コロナ禍の状況も変わり、行事や学習活動、地域との交流等、以前の活動に戻っていくであろうが、全てを復活ではなく、委員からの助言もふまえ精査しながら新しく工夫していくことが重要である。また、来年度は今年度の反省をもとに、外部だけでなく、校内支援についてもっと充実させていくことも必要となる。

学校の特色や反省についての意見等、令和5年度に向けての提言について、委員として学校運営に関わることができる限りの協力をしたいという意見に、この学校運営協議会の意義を強く感じた。職員にも周知し、来年度の学校運営に有効に活かしていきたい。